

令和6年度 三刀屋高等学校(年間評価と今後の改善策)

4段階評価

A:十分に達成できている状況
C:どちらかといえば達成できていない状況

B:概ね達成できている状況
D:ほとんど達成できていない状況

今年度重点目標		自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会)	
		R6 肯定的回答の平均(%)	R5 肯定的回答の平均(%)	R4 肯定的回答の平均(%)	評価	概要と今後の改善策	評価	
1 学力の育成	(1)探究学習を軸とした「三高トライアングル学習」の強化 (2)新課程完成年度における授業改善・ICT機器の利活用 (3)試験問題や学習評価の工夫と改善	68.7 教:72.6 生:78.8 保:54.6	72.7 教:71.7 生:81.1 保:65.4	71.3 教:57.6 生:83.0 保:63.7	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業が効果的に実施され、教員の実践力はアップしているが、さらに進化させるためには、「公開授業」による相互参観をより活性化しなければならない。 家庭学習の重要性は、学年会、各教科など、様々な方面から指導しているが結果に現れてこない。生徒に家庭学習の大切さを理解させることが必要である。 「学習時間調査」に関して、「調査→集計→分析→指導」のサイクルにおける「指導」の場面を設定することや、家庭学習に対する意識を年1回の学校評価のみで判断させるのではなく、授業内や各学期で定期的に調査することで、「家庭学習をしている」と自覚させる機会を増やすことが必要ではないかと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間に関して、子どもたちはメディアに時間をかなりとられているのではないか。メディアにどのくらい時間を費やしているのかアンケート調査をしたらどうか。 部活動から帰宅すると午後8時ごろになり、家で過ごす時間は実質3時間くらいしかない。この時間を有効に使うためにはメディアとの付き合い方が大事だと思う。 2年生の子どもは昨年より間違いなく学習時間が増えている。しかし、リビングでスマホを使いながらの学習になっている。
2 キャリア教育	(1)3年間の見通しとねらいの明確化、振り返り (2)地域資源の活用、多様な文化や価値観との出会い (3)教科学習、進路実現との連携	82.3 教:80.4 生:85.5 保:80.9	74.9 教:75.4 生:85.2 保:64.1	72.7 教:68.2 生:79.8 保:69.5	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は新たに進路講演会や1・2年夏期補習、放課後を利用した各種ガイダンスなどを実施したが、このような活動の充実と併せて、生徒面談や保護者面談などの活用が必要だと考える。改善策として、生徒には系統立てた進路学習の計画と実施、保護者向けガイダンスの効果的な実施、保護者面談を活用した進路情報の共有の機会の充実を図る。 「総合的な探究の時間」質向上事業(R6~7)の受託を受け、2年生において改善を加えている。生徒・保護者の肯定的評価の割合が高いことから、本校の探究プログラムについて一定の評価をしてもらえたものと判断する。 探究学習では地域貢献への意欲を高め、進路実現に向けた取組も進めている。これらの取組の精選や改善を図りながら、さらに生徒の刺激になるような学習を進めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習の実践研究の指定を受けて取り組んでいるようだが、探究学習が生徒のキャリア形成にどのくらいつながっているのか、関連するデータがあると良い。 学校教育に求められている4つの基礎的汎用的能力にある「人間関係性能力」が、探究学習によってどのように伸びてきたのかが分かると評価しやすいのではないかと。 「ゲストトーク」にここ数年参加しているが、1年生と2年生では質問内容や質問のやり方などの成長が見られる。
3 自己表現の環境づくり	(1)部活動等の活性化 (2)生徒会や生徒発の活動の推進など生徒主体の活動の活性化 (3)活躍の機会や場の創出と積極的発信	90.0 教:90.0 生:90.8 保:89.1	92.4 教:94.4 生:91.8 保:91.0	91.0 教:93.4 生:90.8 保:88.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動について、生徒・保護者の肯定的評価の割合が高いのは休養日の設定や帰宅時間、試験期間中の活動など、部活動の運営に協力していただいていることも要因であると考えている。引き続き学習とのバランスを図りながら、適切な部活動の運営に努めたい。 生徒会活動について、教職員評価で大幅な下降が見られた。生徒会執行部員が朝の挨拶運動を企画・実行したが、こういった主体的な活動が少なかったからだと思う。学校行事だけではない生徒会執行部の役割を伝える必要があった。次年度は執行部の役割や自覚を持たせる取り組みを考えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は活発に行われている印象がある。 JRC部の活動を色々なところで見かける。梅を使ったジャムの取り組みはとても良いと思う。 部活動に関する評価を「自己表現のできる環境づくり」の括りにしているのは非常にわかりやすく参考になった。 部活動に時間をかけすぎて成績が下がる生徒はいないのか。また成績が下がったことで活動が制限されるようなことはないか。
4 安心・安全な学びの環境づくり	(1)人権教育・道徳教育の推進 (2)生徒理解と組織的な支援 (3)教育環境・生活環境・職場環境の整備と快適化	93.5 教:91.5 生:95.2 保:93.9	94.7 教:93.9 生:95.5 保:94.6	83.7 教:88.2 生:76.3 保:96.9 95.4 教:96.7 生:96.4 保:94.7	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は服装について生徒に発信する機会が多く、生徒評価と保護者評価にも大きな乖離が見られた。教職員全体で校則の共通理解、共通認識をもって指導すること、担任・学年部・部活動顧問が連携した指導体制づくりを生徒部から発信したい。 いじめの防止及び早期問題解決について、概ね肯定的回答であった。認知の報告が遅れ、事態が悪化するケースはなかった。しかし、明るみに出していない事案があることも予想されるため、引き続き未然防止、早期問題解決に「組織で対応する」という意識を定着させたい。 人権に関する質問に肯定的評価の割合が高いが、生徒の「人権意識調査」の結果を見ると、まだ人権意識に欠ける様子もうかがえるので実態に応じた活動をしていきたい。 環境整備に関して、評価がやや低いので、清掃活動について啓発活動を継続していく必要がある。清掃活動の「手引書」を作成し、清掃指導がより円滑に行われるようにしたい。 特別支援のあり方について、今年度から生徒・保護者も調査対象にしたところ概ね高評価をいただいた。今後とも生徒に丁寧に向き合い、その先の自立に向けて尽力していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 三刀屋高校のいじめの実態について説明があったが、自分が高校生の頃は上下関係が厳しいものの、決して陰湿なものではなかった。今は水面下で行われていて分かりにくいのではないかと。 昨年度入学した2年生から制服が変わったが、制服をかわいらしく着こなしているのが印象が良い。ただスカートの長さがやや短い生徒もいるので指導したら良いのではないかと。 学校周辺で出会う生徒はよく挨拶してくれる。また三刀屋バスセンター周辺で横断歩道を渡る際に、自動車が止まると運転手に礼をする生徒もいる。昔に比べると真面目な生徒が多いと思う。
重点目標以外で評価を求めたい項目 (学校からの情報発信について)		93.6 教:100.0 生:93.6 保:87.2	93.6 教:100.0 生:93.6 保:87.1	94.4 教:100.0 生:96.1 保:87.0	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信について、ホームページでは部活動の結果や各種イベントの様子、「校長だより」など写真を多く使ってこまめに発信した。また「三高メール」や「Google Classroom」を用いて生徒・保護者・教職員への緊急連絡等も遅滞なく行った。「学校だより(蒼雲)」は校内だけでなく、大東町を除く雲南市内に年3回届けている。 部活動、分掌、学年会、卒業生会など各部署からより多くの情報を収集し、広く地域へ、そして中学生に向けて、最新でより積極的な情報発信に努めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からホームページを見ている。「ミトヤノイチニチ」が楽しみだ。 ホームページに掲載されている学校行事に関する情報を見ているが、学園祭の日程変更をタイムリーに知ることができて良かった。 インターネット上にあるイラストなどの無料素材は紙に印刷して配ることは無料だが、インターネット上で使用すると数十万円単位で請求されることもあるので気をつける必要がある。